

アジアの民族分断に日本は特別の責任

大西 広

2022 年 12 月 8 日

有楽町マリオン前をご通行の皆さん、こんにちは。

今日 12 月 8 日は日本が 81 年前にパールハーバーとマレー半島を一方的に攻撃し、太平洋戦争を開始した日です。ですので、この日の過ちを忘れないために私たちは毎年、この場で宣伝行動をしています。特に、私たちは、現在の日本も軍事費の 2 倍化を企図し、沖縄をはじめとする南西諸島の米軍と自衛隊基地の強化を進めています。これは沖縄の人々の意志、南西諸島の人々の意志に反するもので、絶対に許すことはできません。そんなことをして戦争をしてしまったら、実際に戦場となり、ひどい目に遭わされるのは沖縄の人々、南西諸島の人々で、これもまた日本の過ちの繰り返しとなるからです。

確かに今回、ロシアによるウクライナの侵略があり、何か同じことが北東アジアでも起きるのではないかとこの危惧が広がっていることも事実です。ですが、この経過をよくよく見ると、慎重な対応さえすれば、平和的な態度を堅持すれば、この戦争も阻止できるものでした。これはウクライナ国内で反戦運動を進めている「ウクライナ平和主義運動」という組織が主張していることです。

彼らはこういいます。ゼレンスキーは憲法に書き込んだ中立の立場を放棄した。日本と同じです。憲法を守るかどうか、戦争への道を阻止できるかどうかを決めている、との主張です。そして、また、彼らは良心的兵役拒否をしていて、したがって一刻も早い停戦と前提条件なしの交渉も求めています。これは私たちが先日 4000 人の参加で成功させた日本平和大会でのオンラインによる発言の内容です。こうしてウクライナ国内でもゼレンスキー政権に反対してこうした反戦運動を繰り広げている人々がいます。私たちが連帯しなければならないのは、ゼレンスキー政権ではなく、こういうウクライナ国内の反戦活動家であることを確認したいと思います。

しかし、そうであればあるほど、私たちがここ日本の地でやらなければならないことは、平和憲法を守り、隣国への敵対的態度をやめ、各種の問題を外交的手段で解決するという態度への回帰です。そして、日中友好協会を代表してこ

ここで発言としている私として特にここで申したいのは、日本周辺で実際に新たな紛争の可能性をもっている朝鮮半島と台湾海峡の問題は過去の日本の侵略戦争と深いかわりがあるということです。朝鮮が南北に分かれてなぜ2つの国に今なっているのか。これは日本が過去に朝鮮という国を消滅させ、政権の継続性をなくしてしまったからです。また、台湾がひとつの国のような形となっていてしまっている根本的な原因は日本が過去の侵略戦争をその地を中国から奪い取り、50年もの間、日本の一部にしてしまっていたからです。このことがなければ、今、台湾が大陸と別の国のような形となりえなかったでしょう。つまり、今に至る民族分断の責任はどちらも日本の過去の侵略戦争にあるのです。

ですので、私たちは改めてここで皆さんに言わないわけにはいきません。日本政府はこの地で再び軍事的緊張関係を高めるようなことをしてはなりません。民族分断を固定化するようなことをしてはなりません。過去の侵略を肯定するような政治家の発言や行為を許さず、過去へのしっかりとした反省の上にたった外交をおこなわせなければなりません。

今年は日中国交正常化のちょうど50周年でしたが、50年前に日中両国政府が合意、署名した共同声明では、「両国政府は、主権及び領土保全の相互尊重、相互不可侵、内政に対する相互不干渉、平等及び互惠並びに平和共存の諸原則の基礎の上に両国間の恒久的な平和友好関係を確立することに合意する。」と書かれています。また、「両国政府は、紛争を平和的手段により解決し、武力又は武力による威嚇に訴えない」との確認も行われていますし、さらに重要なことは、その確認に続き、「アジア・太平洋地域において覇権を求めるべきではなく、このような覇権を確立しようとする他のいかなる国あるいは国の集団による試みにも反対する。」との確認も含まれているということです。この合意を守るためにはアメリカのこの地における覇権にも反対することになります。私たちはこのように両国間で合意していることを思い出さないわけにはいきません。

81年前の今日12月8日に始まった太平洋戦争も、その本質は日本が大陸で行った侵略戦争に失敗したことから始まっています。この日を単に対米戦争としてのみ理解するのではなく、日本が始めた侵略戦争との関係で理解し、したがって過去の戦争への深い反省を行う日と私たちはしたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。